

# 府政、市政における自民、公明、民主の実態

## 府議会・市議会ではほとんど100%の議案に賛成

住民の立場で、府政や市政を厳しくチェックするのが議員の務め。しかし、自民、公明、民主の「オール与党」は知事や市長の提案にほとんど全て賛成。これでは議員の役目は果たせません。

### (議案に対する態度)

府議会...758件の議案に対して(2003年5月～2006年12月)

自民	757件賛成。反対1件	賛成率99.9%
公明	758件賛成。反対0件	賛成率100%
民主	756件賛成。反対2件	賛成率99.7%
共産	510件賛成。反対248件	賛成率67.3%

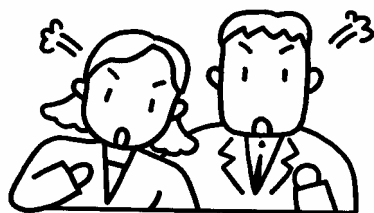
大阪市議会...769件の議案に対して(2003年5月～2006年12月)

自民	768件賛成。反対1件	賛成率99.9%
公明	768件賛成。反対1件	賛成率99.9%
民主	768件賛成。反対1件	賛成率99.9%
共産	423件賛成。反対346件	賛成率55.0%

## 市長の言うことに与党側が素直に従う“ルール”(大阪市議会自民幹事長)

「一方、オール与党体制で議案を通過させてきた議会側の姿勢について公明の待場康生・市議団幹事長は、『市長の言うことをうのみにしてきた部分があったのは反省しないといけない』と語った。自民の大丸昭典幹事長も『市長の言うことに与党側が素直に従う“ルール”は今回の否決(旧芦原病院問題：債権放棄議案)で崩れた。今後もこういうことがたびたび起こるだろう』と述べ、議会と市の間には緊張感を取り戻す考えを強調した。」(2006.10.14 毎日大阪朝刊)

実際には“市長の言うことに与党側が素直に従うルール”は崩れず、「オール与党」が反対したのは、これ1件のみ



## 高齢者の税負担、医療費、介護、すべて痛みをお願いしてきている(公明党大阪府本部幹事長)

『大阪日日新聞』のインタビュー(1月8日)に答えて、「公明党は国政で与党になって七年。この間、高齢者の税負担、医療費、介護、すべて痛みをお願いしてきている。これだけ高齢化が進み、負担が増えてきた。その中で地方議員に対し、有権者からどんな期待をしてもらえるのかを問う選挙。公明党は野党でないので『国が悪いから』とは言えない。『少子高齢化時代で負担もお願いしなくてはならない。しかし絶対守るべきところは守る』と訴えている」と。国政・地方政治の両面での与党としての「負の実績」にまみれ、「逆風」にさらされているのが公明党です。

## 悪政先導するこんな発言も

府議会

35人学級緊急でない(自民) 大企業補助200億に(公明) 奨学金回収は業者に(民主)

「社会から支援をうけられるものは何でももらったら得やとか、そういう考え方がはびこっている...恐ろしいことが起こっている」(自民・阿部賞久議員)

35人学級実現に反対して「すぐ導入しなければならぬほどの緊急性の高い課題ではありません」(自民・北川法夫議員)など冷たい発言

「施策全体を聖域なく点検し選択と集中を誤らず大胆な歳出削減を」(公明党06・10・23本会議)

公明党は、武田薬品の工場誘致失敗の原因を、補助金限度額が30億円のためだと、「200億円の範囲内で交渉できるよう」提案(06・10・19商労委)

民主党の議員は、奨学金の滞納が増えていることを指摘、「民間専門会社に債権回収をすべて委託しては」と提案。それが「行革」の趣旨にも合致する、と質問。